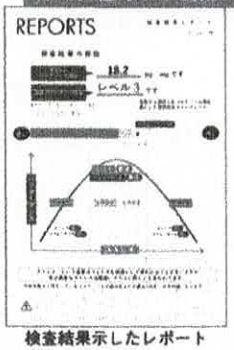
ストレスレベル可視化する検査キット開発

株式会社あすか製薬メディカル

医療用医薬品メーカーのあすか製薬ホールディングスの子会社である株式会社あすか製薬メディカルはこのほど、毛髪や爪を採取するだけでその人のストレスレベルが可視化できる検査キットを開発した。ストレスホルモン濃度検査キット（コルチゾール値）や爪を検査機関に郵送するだけで過去数か月のストレスホルモン濃度の平均値などが示されたレポートがメールで届く。保険会社や代理店がスタッフのヘルスケアのために活用できるだけでなく、代理店が顧客や見込み客への付加価値サービスとして提供するツールにも活用できるという。



検査結果示したレポート

毛髪、爪を郵送するだけ

早めのチェックで対処

スタッフのヘルスケアにも

同社では元々、医薬品開発や研究分野でのホルモン検査の受託を実施していたが、精度の高い検査を一般にも提供可能なサービスとして2021年から郵送検査キットビジネスを展開している。

ストレスホルモン濃度検査キットでは採取した毛髪または爪で行える。毛髪の場合は根本から3センチ以上の毛髪10本程度カットするだけで毛根を抜く必要はなく、爪は爪切りで切った両手の親指の爪を用意するだけ。採取した毛髪か爪のいずれかを購入した検査キットに含まれる所定の台紙に貼り付ける等して、あすか製薬メディカルの検査機関に郵送すれば、2、3週間後に結果レポートがメールで届く。

レポートでは、その人のコルチゾール値（ストレスホルモン濃度）と4段階の慢性ストレスレベルが検査結果として記される。慢性ストレスレベルが最も低いレベル1はコルチゾール値が低いため、ストレスも低いがパフォーマンスも低い状態であることを表す。レベル2とレベル3が適度なストレスとパフォーマンスを保っている状態で、このレベルを維持することが望ましい。レベル4はストレスが高くパフォーマンスが低い状態だ。

検査キット開発時の臨床試験の結果では、コルチゾール値の平均は男性が17・2ng/mg、女性が10・3ng/mgとされており、年齢による違いはない。検査結果が数値で示されるため、レベル1またはレベル4の場合、レベル2や3に数値を近づける必要があることが一目で分かるようになっている。

毛髪を使うと、過去3か月分のコルチゾール値の平均値と慢性的なストレスレベルを測定することができて、爪を使うと過去3～8か月のうちの2、3週間分の数値を測定できる。検体は被験者の都合に合わせて毛髪か爪の検査キットを選択することができる。

従来、ストレスの検査ではストレスチェックといったアンケート形式のものが代表的だが、回答者本人の主観的評価による点が課題として挙げられる。毛髪や爪等の生体情報を使ったストレス測定はその時々の体調などの影響を受けない客観的な評価が可能となるため、より信頼性の高い検査結果といえる。

適度なストレス（適度なストレスホルモン分泌量）はパフォーマンスが向上するなど心身に好影響を与える一方で、長期的にストレスホルモンの分泌が続くと慢性ストレスになり、これがうつ病や不眠症などの精神疾患、生活習慣病などのストレス関連疾患の一因になることが分かっている。

あすか製薬メディカル営業企画部の花塚通郎氏は「慢性的なストレスはうつ病などが発症する原因にもなり、最悪の場合は自殺につながることもある。本検査は、あくまでもコルチゾール値をもとにレベルを評価しており、特定の疾患や病状を診断するものではないが、そうなる前に早めのセルフチェックと対処を講じていただきたい。本検査キットが社会的な課題解決の一助になれば幸いだ」とコメントしている。

代理店の付加価値サービス利用も